

巻 頭 言

久留米大学人間健康学部紀要の創刊に寄せて

学部長 濱崎 裕子

2017年に新しく設立された人間健康学部が2年を経て、令和元年という節目の年に紀要創刊号を発刊する運びとなりました。研究と教育を柱とする大学において、学部紀要を通じて、研究成果を発信していくことは大きな意義があり、学部の発展につながるものと考えます。また、毎年継続的な発刊が長年に亘れば、その内容の変容が学部の歴史を語るものともなるでしょう。

文系学部でありながら医学の知識も備えた学生を輩出する文医融合型学部であり、保育・教育を柱としながらも医学、心理学、社会学、福祉学などの領域から総合的に「子ども」を学ぶ「総合子ども学科」と、スポーツ医学、スポーツ科学を体系的に学ぶ「スポーツ医科学科」という2学科による構成は、その教員の研究領域が多岐にわたることは必然のことです。そして、そこから創出される論文も学際的であったり、紀要全体が多様な側面をもつ論文から構成されたりして、個性のある学術雑誌になるであろうと考えます。

紀要は特に若手研究者の研究発表の場を確保する役割もあり、査読を行うことにより学術水準を保つことや、電子ジャーナルでの発刊にしていることも、学部内における研究者の育成に寄与すると考えます。

創刊号では、新しい学部の将来を展望する「教育」やそこを選択して入学した「学生」をテーマとする論文がいくつかあり、それらの研究に取り組む教員たちが、学生を主体に考えていることや2学科の連携あるいは学部としての統合を意図した学部の展開について、学術的に探究して確かなものにしていこうとしている意欲と姿勢を提示していると捉えられます。そのこと自体がいかにも新学部らしい明るい希望を感じます。

人間健康学部は「乳幼児から高齢者までの健康づくりに貢献できる実践的人材の育成」を掲げており、教育のみならず研究においても躍動感のあるものになることが期待されます。また、紀要論文が実践と理論を結ぶことの一翼を担い、それが教育にも生かされればと思います。この創刊号に続く紀要が、学術情報の発信と多様な方々からのフィードバックによる双方向の論考を積み重ねる場となり、学術の見地からも社会に開かれた学部として発展していくことを祈ります。

